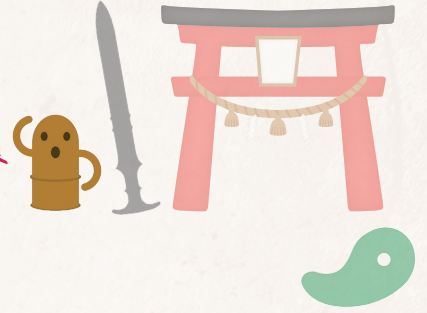


郷土を知る

昔々の そお市

第33回



第一の道具・第二の道具

生涯学習課 文化財係 ☎ 0986-76-8873

考

古学は、文字が誕生するまでの人間の活動を研究する学問で、発掘調査による成果が最も基本的かつ重要な研究材料となります。

発掘現場では住居跡や調理施設、埋葬施設といった遺構に加え、土器や石器などの遺物も大量に出土します。しかしながら発掘現場地点のみで昔の人たちが生活していたわけではないので、調査では周辺の地形や自然環境を考慮し、近隣の発掘調査の成果と比較検討しながら、当時の情報を最大限に引き出す努力をしています。

日本では、明治時代以降に近代的な考古学研究がはじまり、学問としての体制を整えてきましたが、発掘調査では使用方法が分からない、変わった遺物が出土する場合があります。

出土した遺物を分類する場合、衣食住を維持するための、使用方法が容易に想定できる形態のものを第一の道具と呼んでいます。またその逆で、形態からは機能や使用方法が想定できないものがあります。これらを第二の道具と呼び、広く知られている土偶や、当時の宗教や祭祀で用いられたと考えられる道具があります。

曾於市内でも過去に学会で発表され



用途が不明な出土遺物

た用途不明の石器や、現在の発掘調査でも名称が分からない遺物の出土が見られます。

第二の道具を調査研究する場合、宗教や祭祀にまつわる道具という結論に至りますが、現代人の我々が使用法を想定できないというだけで、当時の人々にとつてはファクションやお守り、失われた技術に用いる道具といったような

きちんとした使用法が当然あったはず

です。
道具には使用するイメージが投影されるので、それらの持つ機能を理解できるのは、考えや世界観を共有する人たちのみに限定されます。非常に惜しいことですが、現代人には解明することが難しいかもしれません。



★曾於市埋蔵文化財センターに展示
【アクセス】大隅町月野1946番地1